



学校だより

『未来を拓く礎を』 第11号

平成26年12月22日発行

江戸川学園取手小学校

学校長 若林 富男

1年の終わりに

第2学期も半分が終わろうとしています。紫峰祭・全校校外学習（大洗水族館）・芸術鑑賞会（劇団四季「ライオンキング」）・音楽発表会と大きな行事が続きました。「本物」に出あういい機会となりました。今後も『7つの習慣』の「リーダー・イン・ミー」の考え方（主体性を発揮する）に基づき、子ども主体の活動にしていきたいと思います。病気やけがのない、楽しい冬休みをお迎えください。

*次の詩を15日の放送朝会で紹介しました。

校長講話23「季節を感じる」 12月1日（月）の全校朝会

「紅葉を見にいこうよう」と11月の学校だよりに書きましたが、29日（土）30日（日）の連休に家の周りやお出かけして「紅葉」を見ましたか。

学校の正門前に6本のイチョウの木がありますが、どの木から黄色くなったのでしょうか。それは、真ん中の2本からでした。どうして、真ん中からなのか、調べてみるとおもしろいでしょう。また、一本の木はどこから黄色くなるのでしょうか。空に近い天辺の方からでしょうか。それとも根元に近い下の方からでしょうか。さらに、一枚の葉はどの部分から黄色くなるのでしょうか。自分の目で確かめてみましょう。

日本には恵まれた四季（4つの季節）があります。それは「春夏秋冬」（はるなつあきふゆ）のことです。「シュンカシュウトウ」という言い方もします。いっしょに言ってみましょう。

さて、今の季節は「春夏秋冬」のどれですか。わたしの答えは「秋」でもいいし、「冬」でも丸です。秋の終わりを晩秋（ばんしゅう）といっています。冬の初めを初冬（しょとう）といっています。

周りの風景や食べ物から季節を感じてほしいのです。そして「五・七・五」の俳句を詠む（つくる）のもいいでしょう。

きょうから12月で「師走」です。「師が走る」と漢字で書きます。

いったい誰が走る季節なのでしょう。先生が走るほど忙しい季節ですが、本当は「お坊さん」が走るという意味です。年の終わりは、お経を読むのが忙しくて、飛び回ることなのです。12月が「師走」のように、昔からの言い方で1月から12月まで調べて言えるといいです。

では、英語では12月をなんというでしょう。いっしょに言ってみましょう。「December ディッセンバー」ですね。英語でも1月から12月まで言えるといいですね。ことばの数を増やしていきましょう。

<トピックス>

道徳の授業（校長）で、ノーベル平和賞を最年少で受賞したマララ＝ユスフザイさんを取り上げました。戦争を身近な争い（けんか）に置き換えて考えました。武器（ピストルや爆弾）で押さえつけようという人と対抗するには「本」と「ペン」を持つことだとマララさん言いました。この意味がどれだけ分かったのでしょうか。世界の平和、学校の平和を祈るばかりです。どうぞ良いお年を。

年めぐり —しりとり唄(うた)—

さかた ひろお

かるた	たこあげ	げんきなこ
こけし	しもやけ	けやきのめ
めだか	かげふみ	みずすまし
しがつ	つみくさ	さくらもち
ちまき	きつつき	きりのげた
たうえ	えひがさ	さくらがい
いなか	かなかな	なつやすみ
みさき	きいちご	ごむぞうり
りんご	ごいさぎ	ぎんやんま
まつり	りんどう	どうわげき
きのみ	みのむし	しかのこえ
えいが	がいとう	おおみそか

阪田寛夫詩集（ハルキ文庫）より

*どんなヒミツがある詩でしょう。